

門前谷をのぼり、平林寺遺跡群の上方にある尖がった山を「はちつか」と呼んでいます。

古老の話では、「はちつか」は「八束」であり、東林木の鎮守の神を祀る都我利神社の元神社跡だといわれました。

そして、「東は柄」でもあり「剣」を祀った神社でもあるという。

その昔、北山では大災害が発生し、「はちつか」も山抜けで大被害をうけました。

困った村民達はやむなく現在の地に祭神の移転と神社を建造しました。

都我利神社は別名八王子とも言われ、出雲国式社考「安永二年(一七〇五)神社差出帳」によれば、都我利神社は「八王子大明神」と記載されています。

また、「雲陽誌」によれば、「八王子味耜高彦根神を祀る。延喜式に都我利神社と云うはこの社のことなり」とあります。

「八王子」とは五男三女神といい、味耜高彦根神は大己貴命の第八番目の王子と言われています。

都我利神社の祭神は二坐あって、味耜高彦根神と命の所持された剣を併せて祀られています。

当社の由緒によりますと、白雉三年(六五二)四月朔日勸請・明治四年に村社に列せられ、大正四年十月十二日幣帛神饌供進の

指定社になっています。

そして近年、都我利神社では東林木の諸神社の伊佐波神社、天満天神社、熊野神社、久谷稻荷神社、等が合祀され祭事が行なわれています。

現在、都我利神社の西裾に参道と呼ばれる山道が平林寺遺跡郡の脇を通り、通称「はちつか」につながっています。

ただし、平林寺越えの丘からの道は荒れはてて人が歩くには容易ではありません。

このような観点から、「はちつか」は、「八王子」からの呼称が地名となったもので、その昔、都我利神社の神社跡と考えられます。

